

高幡地域アクションプランの進捗状況等について

H23. 8. 31

高幡地域本部

1 地域アクションプランの第1四半期までの実施状況（総括）

(1) 総評

- ・全体としては、計画に沿った取組が行われているが、「No20 高幡ヒノキ等の加工・流通・販売(四万十町)」や「No. 23 ハモの加工・販売(中土佐町)」については具体的取組に至っていない。「No. 23 ハモの加工・販売(中土佐町)」はH23アクションプランから削除。
- ・H21は、産業振興総合補助金については4事業で、産業振興アドバイザーについては13事業で活用した。H22は、産業振興総合補助金については8事業で、産業振興アドバイザーについては4事業で活用した。H23は、産業振興総合補助金については1事業で、産業振興アドバイザーについては1事業で活用した。

(2) 各分野の状況

〔農業〕

篤農家の圃場を活用した「学び教え合う場」の定着により、生産者のまとまりづくりや栽培技術の底上げが図られている。基幹品目のミョウガは、JA土佐くろしおの年間販売額が初めて50億円を突破した(H22園芸年度)。また、桐島畑では、ショウガの加工施設が完成し、商品の製造が始まった。

〔林業〕

森の工場は、18団地で事業を実施し、建設事業体とのジョイントや下請け契約による分業化が進んだ。また、津野山産原木シイタケの生産・販売・収入の拡大では生産設備を導入し、本格的な取組が始まった。

〔水産業〕

シイラの加工・商品化の取組では、漁業者が設立した企業組合が県内大手の練り製品製造会社と連携した事業規模の拡大を目指して、原材料の確保や衛生管理の向上などに取り組んでいる。また、練り製品製造会社では、シイラを使った練り製品の製造ラインを整備し、3月から新商品の販売が始まった。

〔商工業〕

中山間地域の多角的なビジネス展開では、津野町や四万十町の事業で新たなアンテナショップや加工施設の検討、新商品の開発などの取組が進み、久礼新港背後地利用計画では施設の整備に向けた取組が始まった。また、カツオの商品化の取組では新商品の販売が好調で売上を大きく伸ばした。

〔観光〕

ゆすはら・維新の道社中は、最終入場者数が約9万9千人と目標の10万人に一步及ばなかったものの、「龍馬脱藩の郷」のイメージの定着とゆすはらのファンづくりに繋げることができた。また、志国高知龍馬ふるさと博のサテライト会場が3月5日にオープンした。

海洋堂ホビー館は、7月9日にオープンし、8月24日現在で34,999人が来館した。

(3) 県産振総合補助金採択事業（H22年度：8件）

単位：千円

事業名	総事業費(補助金額)
①スラリーアイスを活用した地域活性化事業(中土佐町・継続)〈No24〉	6,994(3,405)
②津野町地域資源「ふる」活用ビジネス事業(津野町・継続)〈No.32〉	63,572(39,767)
③シイラを柱とした水産加工業の創設(四万十町・継続)〈No25〉	26,775(17,850)
④四万十町拠点ビジネス体制整備事業(四万十町・継続)〈No.33〉	38,501(22,428)
⑤四万十町のこだわり野菜活用加工施設整備事業(四万十町)〈No.9〉	10,604(5,301)
⑥シイラ加工食品の生産拡大(四万十町)〈No26〉	45,789(21,804)
⑦海洋堂ホビー館(仮称)を活かした観光人口の拡大(四万十町)〈No.37〉	153,986(32,182)
⑧津野山産原木シイタケの生産・販売・収入の拡大(津野町・梶原町)〈No.17〉	16,950(10,750)
計	363,171(153,487)

※「継続」は、前年度から実施しているもの。
(H23年度) 1件

事業名	総事業費(補助金額)
①津野町地域資源「ふる」活用ビジネス事業(津野町・継続)〈No.32〉	90,980(50,000)
計	90,980(50,000)

(4)計画どおりっていない事例

外部諸情勢の変化により、計画どおりの展開が困難な状況にいたっているものがあり、代表的な事例として「No. 25 シイラ加工食品の生産拡大」がある。これは、「No. 24 シイラを柱とした水産加工業の創設」により供給されるシイラフィレを活用し、3月からシイラの竹輪を生産販売しているもの。

今年、北米の冷凍すり身の供給量が1.5倍となったことから冷凍すり身の価格が暴落したため、各加工業者が低価格競争を始め、シイラの竹輪も安値で売らざるを得なくなっている。このため、販売数量は徐々に伸びているものの、計画数量には届かず、今後のシイラ加工食品の品揃えや販路拡大への取組の強化が必要となっている。

(2)具体的な動き

① 地域の重点的な取組

重点的に取り組む施策	取組状況(課題、結果、成果等)
まとまりのある産地づくり(主要基幹品目の生産拡大や有望品目の導入など) ・No.1 園芸品目等の地域基幹品目の振興(須崎市、中土佐町、津野町) ・No.2 まとまりのある産地づくりと農家の所得向上(梶原町、津野町) ・No.3 基幹品目及び推進品目等の維持・発展による地域農業の活性化(四万十町)	平成23年度の目標を定めて取組。 <主要基幹品目の生産拡大(3JA)> ・栽培技術の底上げに向けた「学び教えの場」の設置 ※H23計画:12品目42箇所 ※H22実績:12品目42箇所⇨計画:12品目42箇所 ※H21実績:12品目39箇所⇨計画:12品目41箇所 ・ミョウガ出荷量、販売額 ※H23実績:1,884t、販売額28.9億円(22.9.1~H23.5.31) ※H22実績:3,925t、販売額65.5億円⇨計画:3,928t ※H21実績:4,001t、販売額63.9億円⇨計画:3,819t [課題]「学び教え合う場」の内容の充実、計画出荷量の達成 [対応策]普及指導員等のコーディネート力アップ、営農アドバイザー等との連携強化、出荷計画の共有と目標達成のための技術改善や作付け指導 <有望品目の導入・定着への取組> ・農協間連携によるユズ産地育成(JA津野山) H23年度は、新植1,200本(約2ha)来春冬越しの状況を確認。 ※H22実績:新植3,710本(約4.6ha) 冬越ししたものをカウントし合計:約17ha(12,000本相当) ※H21実績:新植9,840本(12.2ha) ・アスパラガスの産地育成(JA四万十) ※H23計画:12戸、2.2ha、出荷量55.0t ※H22実績:16戸、2.5ha、出荷量50.9t、販売額4.47千万円 ⇨計画:16戸、2.5ha、出荷量54.5t ※H21実績:18戸、2.4ha、出荷量41.7t、販売額3.15千万円 [課題]栽培技術の早期確立 [対応策]研究会活動への支援、定期的な栽培講習会・現地指導等

重点的に取り組む施策	取組状況（課題、結果、成果等）
<p>地域産物を活用した1. 5次産業の振興 〈ショウガ〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・No.9 四万十町のこだわり野菜を使った加工品の開発・販売の拡大(四万十町) 	<ul style="list-style-type: none"> ・H23.4月から糸井重里氏考案の「手かげんしないしょうがシロップ」の受注製造開始。5月からネットサイトで販売開始。 ・H22は、新規顧客を10件獲得(加工品7件、野菜3件) ・加工施設が完成(H23.2月16日) ・有機JAS認定講習会の受講 ・新たな農業研修生として5人を受入れ ※H23 売上実績：3,476千円(6月末) ⇨ 計画：10,000千円 ※H22 売上実績：11,791千円 ⇨ 計画：8,023千円 【成果】新たにパート4人を雇用(うち3人は農業のインターンシップ研修から移行) 【課題】自社製品の効果的なPRの実施 【対応】連携事業者等と連携した店頭でのポップやチラシ等による積極的なPRの実施
<p>〈シイラ〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・No.24 シイラを柱とした水産加工業の創設(四万十町) 	<ul style="list-style-type: none"> ・安定的な供給体制を構築するため、三枚卸機やヘッドカッター等を導入(H22.11月末)。 ・入札権の取得(H22.11月末) ※H23 加工品販売額実績：1,847千円(6月末) ⇨ 計画：33,146千円 ※H22 加工品販売額実績：7,382千円 ⇨ 計画：19,200千円 H21 実績：4,710千円 ⇨ 計画：15,640千円 【課題】企業組合の経営力の強化、原材料の安定供給 【対応】財務アドバイザーや人材育成メニューの活用、加工処理能力の向上と冷凍保存のしくみづくり、衛生管理指導、関係機関のバックアップの強化
<ul style="list-style-type: none"> ・No.25 シイラ加工食品の生産拡大(四万十町) 	<ul style="list-style-type: none"> ・四万十マヒマヒ竹輪を商品開発、H23年3月1日～販売開始 ・興津漁協四万十マヒマヒ丸のシイラを使った水産練り製品の加工ラインを整備し(H23年1月末)、新商品の販売を開始(H23.3.1)。 ※H23 取扱数量：2t ⇨ 計画108t(6月末) 【課題】原材料の確保 【対応】冷凍保存の仕組みづくり
<p>〈カツオ〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・No.31「かつお」まるごと商品開発プロジェクト(中土佐町) 	<ul style="list-style-type: none"> ・H21 産振総合補助金により整備したファーストフード店(21㎡)が4月1日オープン。 ※H23 ファーストフード店の売上実績：1,528千円(5月末) ⇨ 計画13,250千円 全体の売上実績：8,426千円(5月末) ⇨ 計画：23,250千円 ※H22 ファーストフード店の売上実績：7,898千円 ⇨ 計画10,705千円 全体の売上実績：38,190千円 ⇨ 計画：19,705千円 【成果】新商品の開発(スープカレー、生姜ロール、漁師のラー油、漁師のラー油(いか大王)、焼きラーうどん等) 雇用14人(正3人、パート7人、アルバイト4人) 【課題】経営方針の確立 【対応】財務アドバイザーや産業振興アドバイザー制度の活用等

重点的に取り組む施策	取組状況（課題、結果、成果等）
<p>森を活かす取組</p> <p>＜森の工場の推進＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・No.12 森の工場の推進(全域) <p>＜森林認証材の販路拡大＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・No.13 FSC 認証住宅の促進(梶原町) <p>＜木質バイオマスの活用促進＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・No.14 木質エネルギーを活かした循環型の森づくり(梶原町) <p>＜特用林産物の生産・販売＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・No.19 津野山産原木シイタケの生産・販売・収入の拡大(津野町・梶原町) 	<ul style="list-style-type: none"> ・森の工場 18 団地で事業実施。 ・建設事業者とのジョイントや下請け契約による分業化が進んだ。 ※H23 実績：なし（6 月末現在） ⇨ 計画：認定 23 団地（うち新設 5）、搬出間伐 15,524 m³（326.71ha）、作業道開設 76km ※H22 実績：認定 18 団地（うち新設 1、事業地拡大 7）、搬出間伐 9,658 m³（157.06ha）、作業道開設 41.85km ⇨ 計画：認定 19 団地（うち新設 2）、搬出間伐 21,726 m³（342.15ha）、作業道開設 49.05 km ※H21 実績：認定 17 団地（うち新設 7）、搬出間伐 2,322 m³（55.19ha）、作業道開設 23.52 km ⇨ 計画：認定 13 団地（うち新設 3）、搬出間伐 161.63ha、作業道開設 34.69 km <ul style="list-style-type: none"> ・県内外への積極的な営業活動(延べ 31 回)を展開したほか、産地セミナー(土佐材流通促進協議会主催：6/25・26 開催)等にも参加。 ・H22 は、産業振興アドバイザーの紹介により大手メーカーから F S C 認証住宅 4 棟を受注(新たな顧客の確保)したほか、「顔の見える家づくり交流事業」で都市住民への PR(延べ 3 回・45 名)も展開。 ※H23 F S C 認証材販売実績：211 m³(6 月末) ⇨ 計画：1,600 m³ ※H22 F S C 認証材販売実績：1,015 m³(43 棟) ⇨ 計画：1,400 m³(33 棟) ※H21 実績：1,018 m³ (29 棟) ⇨ 計画：950 m³(29 棟) 〔課題〕 認証材の P R と営業活動の強化 〔対応〕 同アドバイザーの助言等による営業活動の強化や顧客の確保 <ul style="list-style-type: none"> ・本年度目標を 1,440t に設定し取り組み中。 ※H23 木質ペレット販売実績：270 t (7,534 千円) (6 月末) ※H22 木質ペレット販売実績：1,222.2t(28,143 千円) ⇨ 計画：1,800t(43,287 千円) ※H21 実績：645 t ⇨ 計画：1,200 t 〔課題〕 プラント構成、ペレット価格等の諸課題の解決 〔対応〕 事業推進会議において対応協議 <ul style="list-style-type: none"> ・H 2 2 年度の取組 ・新規取引先企業 5 社へのサンプル提案(1 社に採択) ・「まるごと高知」での催事販売や商談会等への参加(3 回) ・生産設備の導入(乾燥機 7 台、散水ポンプ 3 台、ハウス 2 棟) ※H23 売上実績：1,065 千円(6 月末) ⇨ 計画 32,360 千円 ※H22 売上実績：16,504 千円 ⇨ 計画 23,580 千円 〔成果〕 新たに 7 人が原木シイタケの生産を開始 〔課題〕 原木シイタケの生産拡大や生産技術の向上 〔対応〕 生産設備(乾燥機やハウス等)の生産者へのリースによる生産量の拡大、(財)日本きのこセンターと連携した巡回指導等による栽培技術の向上

重点的に取り組む施策	取組状況（課題、結果、成果等）
<p>拠点組織等による多角的なビジネス展開 <津野町> ・No29 津野町地域資源「ふる」活用ビジネス事業</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・3月産振総合補助金審査会で採択。 ・道の駅「布施ヶ坂」の建物改修工事が完成(8月5日) ・新アンテナショップや加工所の基本設計が完成(1月10日) ・お茶等の地域資源を使った20品目の土産品や惣菜等を試作 ・各直販施設の手数料の統一や会員登録の一元化実施 ※H23実績(4～6月)：直販所売上高 34,705千円(前年対比0.3%増)、宿泊者数 1,872人(前年対比5.7%減) ※H22実績：直販所売上高 136,045千円(前年対比7.9%増) 宿泊者数 9,619人(前年対比2.8%増) ※H21実績：直販所の売上高 126,030千円(前年対比5.2%増) 宿泊者数 9,355人(前年対比3.9%増) <p>[成果] 加工所・アンテナショップ事業採択。新会社経営計画案策定、建築に向けた実施設計着手。指定管理者選定に向けた説明会実施(6社参加)、既存の直販所(公社・三セク統合計画)経営改善採択</p> <p>[課題] 運営組織の健全化、新たなアンテナショップと加工所の整備公募による指定管理者選定、設置管理条例制定、H24.4月オープンに向けての経営計画策定、オープンに向けての津野町内の機運づくり</p> <p>[対応] フードコーディネーターや経営コンサルタントを中心に運営の健全化計画・整備計画・経営計画を策定。生産者激励会(町長以下幹部職員)、住民意見交換会等</p>
<p><四万十町> ・No30 四万十町拠点ビジネス体制の構築</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・商品開発、道の駅「あぐり窪川」の改築を実施。(H22年度) ※H23実績：道の駅「あぐり窪川」売上高(5月末) 51,177千円(前年対比2.9%減) 宿泊数(6月末) 2,155人(前年対比8.1%増) ※H22実績：道の駅「あぐり窪川」売上高 291,305千円(前年対比5.3%減)、宿泊者数 8,434人(前年対比0.2%増) ※H21実績：道の駅「あぐり窪川」売上高 307,484千円(前年対比3.1%増) 宿泊者数 8,421人(前年対比15%減) <p>[成果] 商品開発(加工商品5品、道の駅連携商品3品)、町内生産流通の一元化と町外販売先の確保</p> <p>[課題] 高知市内のアンテナショップの設置及び拠点施設となる(株)あぐり窪川の経営力・体制</p> <p>[対応] 経営コンサルタント、産業振興アドバイザー制度の活用等</p>
<p><中土佐町> ・No28 久礼新港背後地利用計画</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・久礼新港背後地を活用し、温泉や直販所、レストラン等多機能施設の整備を目指した取組を開始。 ・温泉掘削(22年度完了)(泉温31.5℃、湧出量53 l/min) ・用地取得 約9,752㎡ ・経営計画策定委託 <p>[課題] 事業計画や経営計画の早期作成</p> <p>[対応] 経営コンサルタント等も活用した早期の取りまとめ</p>

重点的に取り組む施策	取組状況（課題、結果、成果等）
<p>〈漁業体験等〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・No.33 須崎市の教育旅行などの誘致に向けた体験型観光メニューの開発・商品化(須崎市) ・No.34 中土佐町の地域資源を活用した体験型観光の推進(中土佐町) 	<ul style="list-style-type: none"> ・ドラゴンカヌー場に屋根付きの研修施設が完成(H22.5月16日)。 ・ネイチャーゲームリーダー7名と川辺の生きもの観察インストラクター5名を養成 ・給湯器や換気扇等の整備(H22.11月12日) ※H23実績：ドラゴンカヌーや鯉のタタキづくり体験等の受入れ1,211人(6月末) ※H22実績：ドラゴンカヌーや鯉のタタキづくり体験等の受入れ3,228人 ※H21実績：ドラゴンカヌーや鯉のタタキづくり体験等の受入れ2,881人 [課題] 体験メニューの開発、受入体制の充実 [対応] インストラクター講座開催、安全マニュアルの整備 ・JRとタイアップした「久礼のまち歩き」の商品化(H22.12月) ・遍路道(浜蚯蚓)でウォーキングを開催(49名を受入れ)。 ※H23実績：観光ガイド利用者5名(2回)(6月末) ※H22実績：観光ガイド利用者58名(8回)、観光ガイド8名養成 ※H21実績：観光ガイド4名養成(利用者117名(11回))。 [課題] 大正市場を核とした久礼のまち歩き商品の磨き上げ [対応] ガイド等受入体制の整備、久礼地区重要文化的景観の活用
<p>〈ふるさと博〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・No.35 梶原町の体験型・滞在型観光の推進(梶原町) 	<ul style="list-style-type: none"> ・ゆすはら・維新の道社中 ※志国高知 龍馬ふるさと博(H23.3.5～) 6月末実績：来場者数7,287人、脱藩の道ガイド利用者836人 ※土佐・龍馬であい博(H22.1.16～H23.1.10) ※H22実績：来場者数99,099人、脱藩の道ガイド利用者12,315人 ※H21実績：来場者数13,551人、脱藩の道ガイド利用者1,626人 ・まちの駅「ゆすはら」がオープン(H22.8月28日)。 ・地芳道路の開通(H22.11月13日) ・志国高知龍馬ふるさと博サテライト館オープン(H23.3月5日)。 [成果] 「龍馬脱藩の里」のイメージの定着と「ゆすはら」のファンづくりに繋がった。 [課題] 滞在型に向けた地域の磨き上げと情報発信 [対応] まちの駅「ゆすはら」を核とした地域特産品の販売や地域観光情報の発信、地芳道路開通を活かした売込み
<p>〈ホビー館〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・No.36 海洋堂ホビー館を活かした観光人口の拡大(四万十町) 	<ul style="list-style-type: none"> ・平成23年7月9日「海洋堂ホビー館四万十」オープン 併設企画展「ギネスに挑戦 世界のプラモデル展」同時開催 [成果] 入館者数目標30,000人/年 → 34,999人(8月24日現在) [課題] 海洋堂ホビー館を拠点とした滞在型観光のしくみづくり 受入体制の充実(2次交通や食の提供)

② 上記以外で特に動きのあった取組

取 組	取組状況（課題、結果、成果等）
No.11 滞在型市民農園の推進等による農大跡地の活用(四万十町)	<ul style="list-style-type: none"> ・H23年度は滞在型15棟の内2棟が利用者交代。 ・施設利用者のうち2名が移住を希望。 ・クラインガルテン四万十運営協議会を随時開催し利用者のサポートを行っている。 ・入居状況 <ul style="list-style-type: none"> 滞在型 15棟 うち全棟入居 日帰型 16区画 うち利用15区画 <p>〔課題〕 入居者の移住促進や新規就農への移行 〔対応〕 地域住民と利用者の交流促進、移住を促進するサポート体制の整備</p>
No.23 スラリーアイスを活用した魚価向上対策(中土佐町)	<p>H22年度の取組</p> <ul style="list-style-type: none"> ・カツオ、アマダイ、メジカ等9魚種を使った鮮度保持実験を実施 ・協力店舗18件(県外2件、県内7件、町内9件) ・スラリー製造機(2t)の追加整備 <p>・H23年度 流通試験(協力店舗 県外2件、県内4件) ・H23年度 販売実績(県外1件)</p> <p>〔課題〕 流通方法の確立と販売ルートの開拓、本格的取引を見据えたノウハウの蓄積、他産地との差別化 〔対応〕 本格的取引に向けた具体的販売戦略や運営体制等の検討</p>

2 地域アクションプランの追加項目

平成23年度の地域アクションプランは、追加1件、廃止1件で、平成22年度と同じ37件。事業の仕分は、Aが24から27事業、Bが9から8事業、Cが4から2事業になった。

区分	H22	H23	備考
A	24	27	3
B	9	8	△1
C	4	2	△2
計	37	37	

3 相談件数

- ・H22年度は15件である(須崎市5件、中土佐町1件、津野町2件、梶原町1件、四万十町6件)。
- ・H23年度は4件である(須崎市1件、梶原町2件(うち1件は津野町含む)、四万十町1件)。